

26L-am06

薬剤師の ICU/CCU への関わり

○萩原 真生¹, 加藤 隆寛¹, 遠山 幸男¹, 武藤 達也¹, 斎藤 寛子¹,
長谷川 高明¹, 石橋 ひろ子³, 野口 宏²(¹愛知医科大病薬,²愛知医科大病高度救命救急センター,³愛知医科大病看護)

【目的】愛知医科大学病院高度救命救急センターでは、2名の薬剤師が ICU (Intensive Care Unit) / CCU (Coronary Care Unit) に常駐し、主に薬品管理、投与薬剤の用法・用量のチェック、医薬品の情報提供を中心とした薬剤業務を展開している。今回は薬剤師による情報提供に注目し、その内容と傾向を調査し、ICU/CCU における薬剤師の重要性を評価した。

【方法】平成 20 年 1 月から平成 20 年 10 月までに、ICU/CCU で医師および看護師から薬剤師へ依頼が来た情報提供の内容と薬剤師から医師へ行った個々の患者への能動的な情報提供の内容について調査した。

【結果】薬剤師が病棟に常駐し、医師と看護師から薬剤に関する質問が随時受けられるようになり、情報提供の件数は増加傾向を認めた。看護師からの問い合わせは、ICU/CCU では注射薬が処方を中心となるため、配合変化や投与方法に関するものが多かった。医師からの問い合わせは、抗菌薬を中心に薬剤の選択や投与量の設定が多かった。また、薬剤師からの情報提供の対象は医師が大半を占め、患者の腎機能や肝機能の変化に伴う、投与量の設定や投与薬剤の変更が多かった。

【考察】ICU/CCU では、薬剤師の情報提供は多種の薬剤に及び、かつ患者の病態に合わせて迅速な対応が必要となる。また、使用される薬剤のほとんどはハイリスク薬である。そのため、薬剤師は、リスクマネジメントの面からのその存在意義は大きい。現在薬剤師が急性期の病棟に常駐して薬剤業務を実施している施設は少ない。しかし、情報提供の件数が増加傾向にあることから、今後薬剤師が医療チームへ積極的に参画し、有効かつ安全な薬物療法の推進をすることでさらに質の高い薬物療法の実現に寄与できると考えられる。